集団への効果的な指導のあり方や，授業を通した生徒指導について

平成 29 年 5 月 26 日（金）

ＮＣＣ推進教員　山田清志

1　集団への効果的な指導のあり方について

（1）授業者の指示の工夫（１指示１動作を基本に）

（2）明確なねらいをもった授業づくり

ア　運動に進んで取り組む姿とは・・・・

イ　仲間と助け合って楽しむ姿とは・・・

ウ　学習カードの振り返りにどのような記述があればよいか？

（3）明確なねらいをもった単元構成

ア　何時間構成にするか・・・・・６～８時間，８～１０時間

イ　身に付けたい資質・能力は何か

※例えば，体ほぐし運動と集団づくりを視点とした授業では

スキル・・・・課題発見解決力，思考力，判断力，表現力，コミュニケーション能力

意欲・態度・・協調性，主体性，チャレンジ精神，耐える力

価値観・・・・**共感力（本時の授業）**，人としての思いやり，優しさ

といった項目でしょうか。そこからどの資質・能力に焦点をしぼるかが大切です。

（4）他教科との関連

ア　学活・・・ソーシャルスキルトレーニングやピア・サポート，グループエンカウンター等

イ　道徳・・・「人とのかかわり」と関連した内容項目

※Ｂ－（6）思いやり（7）礼儀（8）友情・信頼（9）相互理解

ウ　総合的な学習の時間・・・三中ではピア・サポート活動に取り組んでいます。

2　授業を通しての生徒指導のあり方について

（1）生徒指導の３機能を生かした授業づくり

・自己存在感を与える　　・自己決定の場を与える　　・共感的人間関係を育成する

→「1　集団への効果的な指導のあり方について」と考え方は同じです。

（2）授業規律が整っているとはどういう姿か

・号令？発表？静かに活動？指示を聞く姿？気をつけの姿勢？座る姿勢？

→この内容は，授業規律と関連した大切な項目です。

しかし，もっと大切にしたい本質があるのではないかと考えてみることも大切です。

（3）教室環境整備（なぜ，環境整備をするのか，趣意説明することが大切です）

・体育では，安全面を配慮した指導（道具も心も）

・体育では，場の工夫によって生徒の意欲は大きく向上する。

・教室では，机・椅子・ロッカー，授業道具など。